

たっぷりあそべる幸せ

＜今月の聖句＞ 「だから、人にしてもらいたいと思うことは何でも、
あなたがたも人にしなさい。」 （マタイによる福音書7章12節）

キリスト教系小学校の校長のお話をうかがう機会がありました。
校長室を開放し、何してもいいよとしたところ、次から次と「お客様」が。折り紙をしにくる子、けん玉やコマなど木製玩具で遊ぶ子、何となく教室にいたくない子、内緒の話をしにくる子、ソファにダイブを試みる子、クールダウンさせてくださいと担任に連れられてくる子…。
そんな子どもたちと関わる中で校長が一番つよく感じたのは「入学前の遊びが足りていない」ということだったそうです。
「ゆたかな体験」という名のもとに行われる早期教育により、入学してせっかく新しい単元で新しく学ぶ「ワクワク感」が削がれている、とも。

先日、市外のある小学校で、保育園の園長対象の授業参観がありました。足し算の導入として、数の増減をバス客の乗り降りでも説明していました。タブレットで大型画面にバスと人の絵を映し出し、当たった子は前に出て得意気に操作していました。先生が「次は足し算やるね」というと、あちこちから「知ってる!」「やったことある!」「やったあ!」と雄叫びが。
招かれていながら申し訳ないけれど、少し複雑な気持ちでした。すなわち、数の世界の不思議との出会いより、タブレット操作の方に気持ちがっていないか。足し算を知ってる計算できるというだけで満足していないか。授業後懇談で先生も「クオンなどで足し算をもう習ってきてる子が多いんです。タブレットもゲームで…」とあきらめ顔でした。

学びの原動力は、自然や友だち、シンプルなおもちゃ等との関わりを通じたなぜだろう、どうなるんだろうという新鮮な驚き、実感、ワクワク感です。その力は、子ども時代にたくさん、時間を忘れて、遊びこむことによって養われます。つくしも、それを大事にする園でありたいと思います。さて、先に参観した教室でたった一人、タブレット操作に手を挙げず、ひたすら自机の上で、積み木をつんだり取ったりしながら、バスの乗り降りを表現している子がいました。私どもの卒園児でした。手や体を通じて「実感する」ことの方が楽しいのでしょうか。「足し算」との言葉も静かにきくだけでしたが、後ろの掲示板で、その子がクラスの「読書係り」であると知りました。つくしでは、絵本がとても大好きな子でした。

「急がなくていい、ゆっくりと、新しい世界との出会いを楽しんでいけ!」
心の中でそう祈って、園に戻ってきました。

(つくし保育園園長 つだかずお)